



私の脳裏にいつも浮かぶもの？

NPOうべ環境コミュニティー 理事長 加藤 泰生

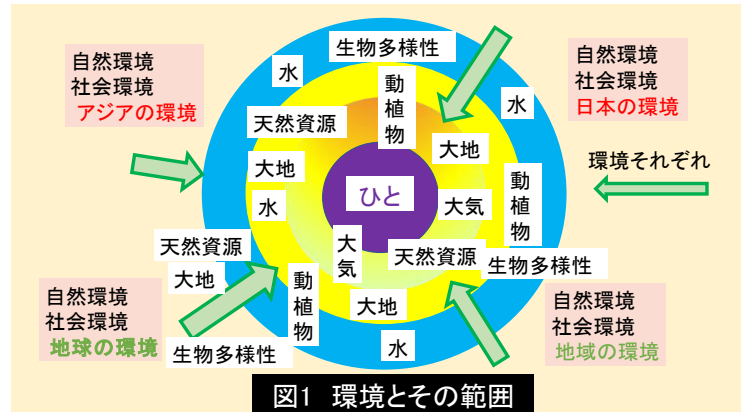
約6年前の大学教員退職までは、自己紹介する際は、私の専門は“熱工学”ですと、このように言っていました。いわゆる私の研究・教育では熱エネルギーの特性を知り、その有効利用（エネルギー伝達の促進、あるいは省エネ等）などの研究と教育を司ったことによります。ただ退職後、UKC（うべ環境コミュニティー）に参加して、対象を広範囲な環境問題へ向けなければと、意識の自己変革を迫られました。それまでと違い、市民活動家にもなり切れないし、やや曖昧な立ち位置と感じています。中途半端なのです。ただ常に脳の片隅で自問していることは、1）環境問題とは？ 2）エネルギー問題とは？ 3）環境とエネルギーの関係とは？ このような問いに必ず、環境問題の解決 ⇄ エネルギー問題の解決がセットで、出現します。理由はありません。ただし、私の考える環境とその範囲（図1）において、環境問題の対象と考えるには、あまりにも多岐にわたります。

なお、参考までに地球上での環境問題を頭に浮かぶだけ列挙すると（*：エネルギーが起因の環境問題）、

- 1) 地球温暖化*、温暖化ガス（CH4、CO2等の影響）、
- 2) オゾン層破壊⇒フロン問題、
- 3) 酸性雨、
- 4) 森林、特に熱帯林の減少と開発、
- 5) 野生生物

種の減少、いわゆる自然破壊、6) 砂漠化*、7) 海洋汚染の1つ、マイクロプラスチック、8) 有害廃棄物の越境移動---グローバル汚染、9) 開発途上国（中、後進国）の公害問題、10) ヒートアイランド*in都市化された地域、等があります。

まだあるでしょうが、わたしどもの宇部地域でも、これらの環境問題のいくつかは少なからず存在します。そして、微力ながら今後、機会がある限り、現状での問題提起と、それらの解決法などへの私なりの考え方を精査しながら提供していこうかと考えています。今後のUKCの活動のためにも有益なものとなるかと思えます。皆様のご支援を期待いたします。



イベントのお知らせ



市民活動・ボランティア団体の広場

青空ゾーン

2023年
11月5日(日) 11:00~16:00

ハミングロード新天町・アーケード内・周辺

宇部まつり・青空ゾーンに出展

- ・場所：ハミングロード新天町・アーケード内（道雲堂向かい）
- ・パネル展示、マイクロプラスチック可視化、水素エネルギーモデル実証実験（うべ環境コミュニティー）

第1回ESD研修会 テーマ：SDGs未来都市うべにおける人づくりの重要性について(仮題)

- ・日 時：2023年 12月9日(土) 14:30~16:30
- ・場 所：宇部市総合福祉会館3階講習室（対面・オンライン）
- ・講 演：村岡 和弘（宇部市市民環境部次長）
大濱 進治（宇部工業高等学校）
- ・申込先：まちなか環境学習館 電話 0836-39-8110
メール ubekuru@gmail.com ・資料代：200円(学生無料)

QRコードから
申込できます



特別サロン2 特別講演及び高校生等による成果発表会

- ・日 時：2024年 1月20日(土) 14:00~16:30
- ・場 所：宇部市総合福祉会館2階交流大ホール（対面・オンラインあり） 参加費：無料
- ・講 演：山口真悟（山口大学工学部知能工学科 教授）
「高度情報化社会をどう生きる~情報リテラシーについて」

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号
 交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分
 宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分
 駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）
 TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com
 開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>
 休館日 土・日、年末年始（12月29日~1月3日）



Home Page



facebook



twitter

ハンドメイドで「エコ活動」

昭和女子屋台Lab 代表 樋谷直美

ハンドメイドのシェアオフィス昭和女子屋台Labは2018年中央銀天街の活性化プロジェクトで空き店舗の利活用で誕生しました。

当初は、ひとつづくり/ものづくり/ことづくりをコンセプトに、セミナー/商品販売/イベントをしていましたが、2019年からハンドメイドでエコ活動もするようになりました。

そのきっかけとなったのは、コロナ禍です。大量のマスクをつくる過程で、中途半端に残る大量の布の切れ端が出たのです。

何か利活用できないかと考えていて思い付いたのが、くるみボタンでした。簡単にできるので、誰にでもつくれます。より多くの方に参加していただけたらと思います。くるみボタンのワークショップを開催するようになりました。

特に、子供たちや障害者の方にも参加してもらい、喜んでいただいています。

また店舗の方ではリメイク教室を開催し、思い出の品を捨てることなく利活用をすることを提案しています。

イベント等では、多くの皆様からご提供いただいた、トイレットペーパー、ダンボール、木材などの廃材を利用したもので、数多くの無料のワークショップを開催することができました。

偶然にも、宇部市まちなか環境学習館、銀天エコプラザの近くでオープンしたお店ですが、まさかエコ活動が始まるとは思いませんでした。不思議なご縁を感じずにはられません。

これからも多くの皆様のご協力のもと、昭和女子屋台Labはものづくりを通して、資源を大切に、リサイクルしてゴミを減らすなど、地球環境に優しい「エコ活動」をしていきたいと思っています。



手作りマスクの余り布を活用して作ったくるみボタンヘアゴムやブローチになる。



トイレットペーパーの芯を有効利用して作られたワークショップの作品壁かけになる。

うべ環境コミュニティー会員 ほっとコラム

公害問題から環境問題への変遷について 浮田 正夫

先日10月4日の第2回環境サロンで新進気鋭の川尻剛士さん（山口大学）の講演を聴き、改めて公害問題は過去のものになったという安易な認識は慎重であるべきことを考えさせられました。

公害問題に関心をもち、専門分野を変更して、環境衛生工学に取り組んだ者としては、公害→環境問題→地球環境問題の流れは、さほど抵抗なく受け入れてきた経緯があります。

たしかに放射能汚染が環境基本法とは別の法体系で管理されていること、福島原発事故の責任も充分問われているとは言えません。ごみ問題にしても、製造業者、流通業者に比べて一般消費者の責任がより大きく問われている傾向があり、CO2による気候変動問題についても同様です。

講演後の話題提供で、小生は従来の環境論を説明し、演者からはそれなりに参考になるとされましたが、「われわれ現代人の倫理観の欠如を何とかしなくてはいけない」という結論づけは、社会的な問題を個人的な意識の問題にすり替えられる危険性があると反論されました。

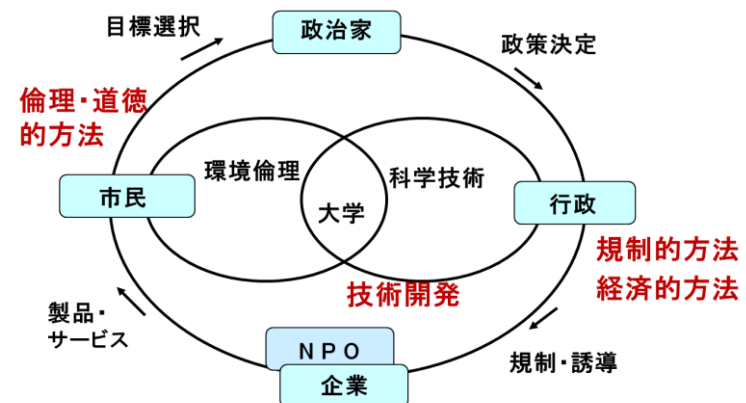
これも、たしかに、倫理観を、狭い愛国心に持って行かれるおそれもありますし、そのような世の中

の動きも感じられるこの頃です。

しかし世界人口が急増し、その一人一人が自然環境に影響を与えるような贅沢をしていくことになれば、いずれにしても持続可能な世界を実現することは容易ではありません。

日本は米国から真の独立をして、世界平和に貢献できるように、若い人たちを含む我々がしっかりして、信念のある政治家の輩出を期待したいと思います。

うべ環境コミュニティーは、長年世代交代を希求してきておりますが、思うように進んでいません。ご協力いただける方のご連絡を切にお持ちしております。



環境問題解決方法の図式